

第11回一関市総合教育会議 会議録

- 1 会議名 第11回一関市総合教育会議
- 2 開催日時 令和2年7月8日(水) 午前10時00分から午前11時30分まで
- 3 開催場所 一関保健センター 栄養指導室
- 4 出席者
 - (1) 構成員
勝部修市長、小菅正晴教育長、千葉和夫教育委員、佐藤一伯教育委員、伊藤一志教育委員、桂島加奈子教育委員
 - (2) 事務局等
市長公室長、市長公室次長兼政策企画課長、政策企画課政策推進係長、政策企画課主事、まちづくり推進部いきがづくり課長
教育部長、一関図書館長、教育部次長兼教育総務課長、教育部次長兼学校教育課長、教育部次長兼文化財課長兼骨寺荘園室長、一関市博物館次長、教育総務課長補佐兼庶務係長
- 5 議題
新型コロナウイルス感染症の流行における学校教育について
- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴者の数 報道 6社
- 8 挨拶
市長挨拶
学校現場における新型コロナウイルス感染症とともに生活することで、どのような施策がこれから必要か、そういう話題がこれから重要になってくる。
ギガスクール構想について、今の環境ではまだ難しいだろうと思う。基盤ができたとしても一般家庭までどのようにつなげていくか、まだ心もとない。そのような遠隔の教育方法をとった場合に一人の教師が大勢の子どもを一度に見られるか懸念される。
ICT教育に係る人材をもっと育成していかなければならない。それを全国くまなく配置計画をつくり体制を整えて、はじめて実現に向けた道筋が見えてくるのではないかと思う。このような大きな問題がある。岩手県の現状では、かなり道のりは長いと感じる。何とか光ファイバーケーブルの整備については、今回の地方創生臨時交付金で一関市はようやく実施できるようになる。それをどのようにして家庭まで引き込みできるか、最後の何メートルかが問題になる。どのようにして基盤を整備していくか、これが解決され情報機器をどのように整備するか、それを実際に使用する場合に指導できるICT教育の人材確保も図っていかなければならない。これを区切って実施することは出来ないので、基盤整備とソフト面と一つの流れの中で組み立てて実施していきたい。
もう一つの問題は、学校関係の整備であるが、千厩地区の整備は統合が完了して新しい形になって動いている。次に今、具体化しようとしているのは、花泉地域の小学校である。これについても着々と計画が進んでいく。そして、室根地域の小学校である。これについても計画ができていくので、確実に進んでいく。大東地域の中学校についても、計画が進んでいく。そして、一関小学校の整備方針を固めて実現に向けて計画を立てたい。ま

だ、具体的なところまでは進んでいないが、いよいよ整備することを考えている。今のところ学校のハード面で考えているのは、そのあたりまでである。人口減少がこれからますます顕著になることを踏まえて、より具体的な、より長期的な計画を作っていかなければならない。

今日は、新型コロナウイルス感染症の中にあって、学校現場の先生方のご苦勞をしっかりと共有しながら、今後の対応を考えていきたい。

9 懇談

教育長 今日「新型コロナウイルス感染症の流行における学校教育について」を懇談テーマに進めさせていただく。

最初に学校生活の現状について皆さんと共有したい。今日は萩荘小学校と千厩中学校に参加していただく。(オンライン会議による参加)

教育長 現在の学校の様子について、感染防止に関わっている部分を話していただく。

萩荘小 昨年度末、3学期の全国一斉の臨時休業に引き続き春休みと、長い休みを経て1学期をスタートした。子どもたちは多くの制約に戸惑いながら、学校生活ができる喜びと日常でないストレスを感じながら学校生活を送っている状況である。

多くの制約というのは、マスクの着用であるとか検温、座席の間隔、手をつなげない、大きな声を出せないなどの状況の中で生活していた。その中で子どもたちもストレスを感じるが多かったと見受けられる。

年度当初に新型コロナウイルス感染症予防の取り組み一日の流れを学校での暮らし、家庭でお願いすることを1枚のペーパーにまとめ、ホームページに掲載した。また、各家庭にも配布した。その中で、6年生が1年生を迎えたが、入学式に参加できなかったことや1年生を迎える会もできなかったことから、6年生のやる気に応えられず歯がゆい部分もあった。また、三密対応の関係で、延期や中止とした行事も多かった。授業については、昨年度末の臨時休業に伴う積み残し部分を4月当初に対応した。体育や家庭科では、指導時期を変更して進めている。具体的には、音楽の歌唱や吹奏系の楽器は同じ方向を向いて歌ったり演奏したりしている。国語の音読もマスクを着用している。外国語については、マスクを着用しているため、英単語の口径指導ができないなどの弊害もある。プールについては、例年より一週間遅れてプール開きをした。三密対応のために手をつなげないことからバディーを組めない状態で例年と違っている。1、2年生用の小プールについて、これまでは2クラス同時にできていたが、三密対応で学級ごとにしか利用できない。また、更衣室の利用にも制約がある。消毒などにおいても職員の負担が増している状況である。給食についてもグループでとっていたものを前を向いてとるようにしている。手洗いも確実にを行うようにしている。

千厩中 4月からスタートしているが、3年生は4月に予定していた修学旅行が2学期に延期となっている。また、5月に予定していた体育祭も実施できないのではないかとの不安の中でスタートした。体育祭については職員で協議し規模を縮小し実施しようと判断した。その後は縦割り活動の中で3年生を中心に頑張ってきたと思う。現在は通

常通りの学校生活を送っている。校地の検温や健康観察はだいぶ習慣化してきた。マスクについては強制していないが推奨している。手洗い消毒の励行、授業時や給食時の座席の配慮や下校後には職員が消毒作業を継続して行っている。授業については、三密を回避しながら、合唱や体育、対話的な活動も含めて、ほぼ通常通りできていると思う。部活動については、年度当初は校内だけの活動だったが、ゴールデンウィーク明けから夜間練習や練習試合も可能となった。

心の絆交流大会前の3週間は部活動時間を延長した。県中総体や地区中総体は中止となり、3年生は悔しい思いをした。しかし、心の絆交流大会の代替大会の開催については、生徒や保護者から感謝の言葉が多数寄せられた。順位を付けない交流大会ではあったが、3年生にとっては、部活動の集大成、節目の大会として意義のあるものだった。支えていただいた保護者、市教育委員会、協会の皆様にあらためて感謝したい。また、市長には「心の絆、伝える思いフォト事業」を企画していただき、選手たちの躍動する姿を記録していただいたことにあらためて感謝したい。

教育長 保健室の様子や子どもたちの様子を聞きたい。コロナの関係で話題となることはあるか。

萩荘小 休みが終えた時には、少し運動不足や心にも影響していると感じた。ちょっとしたことでトラブルになったりした。保健室への来室の児童について、問診を大切にシバイタルチェックをしっかりととっている。脈拍が早い場合は休養させ、熱が上がるかどうか確認している。発熱だけではなく、いつもの状態と比較して調子が悪そうなときは、発熱していなくても家庭へ連絡し早退させるようにしている。発熱した場合、本来であれば別の部屋で休養させ迎えを頼むが、教室数の関係で本校では対応できない。そのため、シーツや枕のタオルを交換したりアルコール消毒をしたりしている。

教育長 保護者から不安の声は寄せられるか。

萩荘小 病院に連れて行っても大丈夫か、診断を仰ぐようなことがある。保健室への問い合わせが多くなっていると感じる。

教育長 学校の中の消毒作業について、どのような形で行われているか。

萩荘小 子どもが多く手を触れるところを中心に職員で放課後に行っている。また、子どもたちが昼休みに遊ぶ道具も消毒するようにしている。以前は次亜塩素酸ナトリウムが主だったが、地域の業者よりいただいた銀イオン水もプラスして行うようにしている。このことは、学校医や薬剤師からご指導をいただいた。プールについては、酒造会社からいただいたアルコールで消毒している。

千葉委員 萩荘小へ伺う。先程、教室の場面が映っていたが、隣の生徒同士の距離が密になっているように感じられる。間隔を1メートル保つことは可能か。

萩荘小 本校では一クラス30名を超えるクラスが多いが、30名のクラスで1メートルの間隔をあけることは現実的に難しい。その中でも最大限隣と席を離すようにしている。また、教室はオープンスペースとなっており、ギリギリまで席を離すように工夫している。ただ席を離すのではなく、ランダムに席を配置している。

伊藤委員 千厩中へ伺う。部活動の制限について保護者からの問い合わせ状況はいかがか。

千厩中 学校への問い合わせはなかった。学校の説明に理解し協力していただいた。

桂島委員 生徒や先生方が新しい生活様式の学校生活の中でどのような困ったことがあるの

か把握することができた。消毒についても薬剤師等から意見をいただき地元業者からいただいた銀イオン水を活用している事や地元酒造会社からのアルコールを活用されているが、実際に使用し消毒の機能があるのかどうか続けてみてほしい。

生徒の発熱の管理も重要だが職員の発熱はどのように管理されているのか。

萩荘小 職員の検温については、各自家庭で確認し出勤している状況である。

佐藤委員 萩荘小で用意された一日の流れを拝見し、学校や家庭でかなりご苦労され学校を運営されていると感じた。長期の春休みがあったが、授業が最後までできたかどうか、また、インフルエンザ等による学級閉鎖で授業が遅れる場合の対策と、今回の休業による遅れの対策に共通点はあるのかどうか。

萩荘小 授業の進捗について、昨年度末の全国一斉の臨時休業の期間が15日間あり、4月の時点で遅れの部分の補充を行うよう担任に依頼した。学年の共通性の部分、同じ領域を補充し進捗を確保していく。運動会や各種行事が延期となり授業中心になったが、昨年度の遅れの部分を対応しているため、進んでいるとは限らない。

千厩中 春休みについて、3月4日から休業に入ったが、3月3日までのところでどの学年についても学習内容についてはすべて消化している。今年度の部分については、修学旅行がなかったり、行事が簡略化されたりしたことで、例年より若干授業の進捗が早い状況である。

市長 学校現場については、市長の立場ではなかなか接する機会が少ないが、本日は、校長先生や養護教諭の話を聞き、ご苦労をされていると感じる。

マスクの着用について、国でも新たな生活様式の中で基準のようなものを示している。統一した基準がなく、どのように市民に説明したらよいか悩ましい部分である。学校現場では、厚生労働省が運動する場合は着用しない方が良いなどとの意見がある。また、そもそも着用しなくても良いとの専門家の意見もある。この問題が今はっきりしていないところである。国に対し、しっかりした見解を示すように語っていききたい。学校現場でのマスクの着用は、どのような現状か。

千厩中 現在は、4月に比べると着用していない生徒が増えてきていると感じる。学校としては特に強制はしていない。推奨という形で保護者にも説明している。夏場になっても比較的着用している生徒は多いと感じる。

教育長 着用していない生徒の割合はどのくらいか。

千厩中 3分の1が未着用の状況である。

教育長 学校からの個別の声がけはしているか。

千厩中 特にしていない。生徒や保護者の判断に任せつつ着用を推奨している。

教育長 教育委員会ではあまり神経質にならないように、基本的には着用を推奨している。

教育長 マスクを着用することによって、学校生活の場面で難しい部分はあるか。

千厩中 体育や部活動の際には、自分の体調に合わせて、着脱について考えるよう話をしている。

教育長 萩荘小の子どもたちのマスク着用の割合はどのような状況か。

萩荘小 子どもたちの着用率は高い。8割から9割は着用しており、逆に着用していない子どもは少ない。

教育長 マスクを着用しての活動で難しい活動はあるか。

萩荘小 外国語の口径指導や対話などのペア学習については踏み出せない状況である。

教育長 マスクの着用について、先生方で議論になったことはあるか。また、保護者からの意見等寄せられたことはあるか。

萩荘小 授業参観日がないなど、今年度はなかなか保護者の意見を聞く機会が少ないが、マスクに関しての意見はない。先生方も毎日マスクを着用しており、熱中症が心配である。

千葉委員 専門家の中でも意見は分かれており、自分のくしゃみをする時の予防には良いが、他人のくしゃみを止める効果がないとする専門家もいる。心配なのは、昨日のニュースで、今までは飛沫感染と言われていたものが、空気感染がかなりあるのではないかとのことを世界の医学者から出てきている。そうなると、マスク着用の意味合いもさらに薄くなるのではないかと思う。

今、岩手県は感染者ゼロだが、自粛が解除され、やがてお盆の時期に帰省する人達や単身赴任で都会に行っていた方々が帰ってくると、岩手も感染者ゼロではいられない状況になってくる。そうなると、教室は1メートル間隔で30人学級では難しくなる。一学級10人とすると、空き教室や公民館などほかの場所も検討しなければならない。先生の数も問題になり、講師を確保しなければならない場面も出てくるのではないか。今までの教育内容ではいかなくなる。これから、夏以降そのような状況にならなければよいと心配している。

伊藤委員 岩手の場合、教師がどうしても不足する気がする。講師も見つけづらい状況であり、大きな課題だと思う。人材確保に努めていただくことが大切である。

教育長 教室の関係と感染拡大についての考えはあるか。

桂島委員 実際に仙台からの業者は、新幹線の1車両に自分しか乗っていなかったと話していたが、自粛解除になってからは新幹線も大勢の方が乗車していたとのこと。他県ナンバーも増えており、人の移動は避けられない。また自粛要請となった場合に、果たして同じように行動できるのか不安である。コロナウイルスは熱に強いと聞き、インフルエンザのように夏に減るというわけではなく、そのまま冬に移行しインフルエンザとともに流行することを考えると、どうしたらよいかわからなくなる。

その中でも生徒が不安にならないように授業をしなければならないし、オンライン授業への流れになりつつあるが、危惧しているのは、同じ姿勢でパソコンを見ているので、エコノミー症候群や視力の低下、ストレスの問題も考慮しなければならない。

教育長 教室の中は子どもの数が決まっているし、面積が決まっている。萩荘小のように廊下とつながっているオープンスペースがあれば、ある程度間隔をあげられる。そうすると、今度、黒板が見えづらかったり、先生の話が横からしか聞こえないなど、大きな課題になってくる。20人程度の学級では、1メートル以上の間隔は十分確保できる。休業の場合は分散登校も考えられる。

今後、感染が拡大した場合、学校教育の中でどのようなことが懸念されるか。

佐藤委員 子どもが大学生で、3月早々に帰ってきているが、家でリモートの講義を受けている。大学によっては、今年度は授業を普通にやらないと決めている大学もある。どのような形で取り組んでいくか模索している状況のようである。メリットとしては自宅にいながら各講義を受けレポートを提出することで、結果的に普段より勉強する機会

になっている。

以前から働き方改革でテレワークが話題になっていたが、コロナをきっかけにリモートの講義も対策を進めざるを得なくなってきた。遠隔のものがどのような効果が考えられるか、大学の附属中学校等で保健室登校の方に保健室から授業を受ける取り組みから、少しずつ実際の教室に登校できるようになっていく効果も試験的に行われている。

一関市のキャリア教育の一環で職場体験など、昨年度より実施できない部分も出てきているが、感染症対策をしながらどのようなキャリア教育ができるのか工夫が必要である。

健康面では、長時間パソコンを見ると視力の低下が懸念される場所であるが、1時間パソコンを見た後はある程度の時間、遠くを見るなど海外でも取り組んでいるところもある。PTAの役員の際に、学校の保健委員会のようなところで、視力の低下に対しては遠くを見た方が良いとの眼科医からの話があった。

今後、コロナが拡大し、今までやってきた授業ができなくなってきたところに対してどのような工夫をしたらよいか検討していかなければならない。

教育長 市内でコロナが発生した場合、学校として一番懸念されることはどのようなことか。また、行事との関係はいかがか。

萩荘小 岩手県は今のところ発生していないが、岩手県の玄関口として一関市は不安な部分を抱えている。感染しても症状が出ない人もいるとのことであり憂慮している。行事については、これまで保護者や地域の方々にご覧いただいていたが、今は保護者の方々にご覧いただくことも制限させていただいている。卒業式や入学式についても保護者のみの形で進めさせていただいた。

やはり、子どもたちの安心安全を担保するためには、そのような形で行事も考えなければならない。現在、2学期に縮小した形で運動会を計画している。また、修学旅行についても教育委員会の指導により秋に県内で行うことを検討している。県内に計画したことにより沿岸部の震災学習を取り入れることができた。

千厩中 進路が一番懸念される場所である。どのように学習を進めていけばよいか大きな課題となる。修学旅行については、市内すべての学校が2学期に開催する。早い学校では9月にスタートする。当初は東京方面や北海道方面だったが、教育委員会と協議し、東北地方を基本として日光あたりまでを範囲として業者と行程の練り直しを進めている。一生懸命頑張っている3年生なので、何とか実施してあげたい。体育祭については、市内16校のうち6校が2学期に開催することとしていた。学校によっては、2学期に体育祭、修学旅行、文化祭と、かなりタイトな進行が迫られる。中学生は、行事を通して成長する部分があるので、体育祭、修学旅行、文化祭をぜひ実施していきたい。文化祭については、10月、11月を予定しているが、小規模な学校は感染症対策を取りながら通常通り開催できると思うが、中規模以上の学校は、ステージ発表のみで、展示部門については学期末の三者面談などにあわせて開催したいと考えている。また、隣接する公共施設を利用して平日に開催することも検討している学校もある。

教育長 先程話題になっていたICT環境の整備について話題としていきたい。

昨年の12月に国でGIGAスクール構想を進めることで、一関市もその準備を進めている。この部分については全国的に話題になっており、一関市も話題になってくると思う。

以前、栗登一平のトップの方々がオンラインで話をしたとのことだが、学校より一歩進んだ形で実施されている。ICTに関し市長の考えを伺う。

市長 基本的には、ネットワークの範囲をどのあたりに設定するか、都道府県での線引きは無意味である。日常生活圏の捉え方が大前提である。学校教育では、都道府県単位で県の教育委員会があるので、一致する部分がないが、一般行政の場合と視点が違ってよいと思う。市町村立の学校なので、市町村単位で考えていくことは、原則になると思う。一関市の場合、課題になるのは、東西に広い面積を有していることと旧東磐井地域については、北上山地の最南端にあたる部分で、谷間が多くなっている。このようなことから、今でも電波が届かずテレビが映らないところがある。これは、アナログの時代から一関市は電波が届きにくい。花泉地域は、ほとんど仙台からの電波しか受けられない状況だった。このような一関市特有の地域課題はあるが、そこをどのように克服していくか、無線は限度がある。今般、整備することに決めた光ファイバーの基盤を整備し各家庭までつなぐ。そこから様々な機能を加えていく必要がある。例えば、ケーブルテレビについては、藤沢地域は合併前から整備しているが、見られない地域もある。そのような市内での格差を解消していかなければならない。ハードがある程度整備された段階でソフトに移行するが、段階的に決めてやることも場合によっては効果的な方法である。

教育総務課長：資料No.4により一関市学校ICT環境整備計画を説明

指導主事：資料No.4によりICTで可能となる教育内容を説明

千葉委員 コロナがあろうが無かろうが、20年後にはこのような学校になると思っていた。良し悪しはあるが、学校におけるオンライン授業になれば、コロナによる臨時休業にも対応できるようになる。個々の児童・生徒をみると、今は教室で授業を受けているが、これが家庭で授業を受けられることになると、強い気持ちがないと授業に対する姿勢に差が出てくるのではないかと思う。オンライン授業が一般化すれば、集団生活、いわゆる社会的な人との関わりの学習をどのようにやるのか、課題はあると思う。

佐藤委員 先程の話で、インターネット環境が5割程度ではないかとのことであったが、大学のリモート授業をスマートフォンしかなく、それで受けている学生もいる。学生の中には経済的にパソコンがない状況の学生もいる。スマートフォンを子どもたちが持つことにいろんな問題があるが、可能性として、端末を全員が持つ間のつなぎとして活用することも考えられる。授業の内容によっては、市のラジオやテレビを活用することも検討してはいいのではないか。

桂島委員 ICTについて話を伺ったが、ICTはデジタルがつながる環境でこそできることだと思うので、それを今整備しようとしていることは有難いと思う。実際に中学生の子どもが二人いるが、デジタルを使う機会が増えてきている。検索もインターネット

を通じて行くとすぐに把握できる。便利な反面、辞書に触れる機会が、私たちの世代より下がっている。調べ方を理解したうえでデジタルを使用することは良いが、辞書を使えたうえで検索サイトを活用した学習を取り入れていくと良いと思う。

病院をやるときに電子カルテを導入したが、紙カルテもあった方が良いということで併用した。東日本大震災の時に何日も停電になり電子カルテが使えない状況になったが、紙カルテから処方箋を出し対応した。実際に全て電子化にしてしまわず、アナログの部分も残して、アナログのメリットとデジタルのメリットを取り入れていけたらと思う。実践することを同じ方向で取り組むと様々な問題が出てくると思うが、やるという方向でいくと、皆さん何とか解決しようという気持ちで取り組んでいくと思う。子どもも保護者も教育に関わる方も行政も同じ方向でそれを目指すよう進められたら良いと思う。

伊藤委員 素晴らしいシステムだと思う。教師の負担の軽減にもつながるし、合理的で便利だと思う。ただ、知識を高めるためには最高の機関だが、心配なところは、教育というのは知識だけを高めるのではなく、心の教育もすごく大切になってくる。システムが導入されても成果の確認はしっかりとらえて、心も教育も並行して行うことがすごく大切だと思う。

教育長 令和3年度までにタブレットが配備され、子どもたちが家に持ち帰ると5割の子どもは今の状態でも可能になる。残り5割については市民センターに行ったり、毎日ではないが学校に来てもらったりすることでオンラインの授業が可能になる。やろうと思えば出来ないことはないと感じる。

先日、ある番組で、2年生と3年生の兄弟がオンライン授業をしていたが、5分後にはゲームをしていた。オンライン授業には先生方も不慣れな部分があり、ものすごくエネルギーを使う。やはり、対面授業に敵うものはない。ただ、それができないときの方法としてオンライン授業があるし、今後の可能性の部分もあり、研究が必要である。

市長 先月、市内の高等学校のキャリア教育の講師を務めた。テーマは、地域に生きる。すごく大きなテーマだが、社会人として一步を踏み出す時期がやがて来る。その時に自信をもって力強い一步を踏み出してほしいことのために、今、何をすべきか話した。

その中で、順序として、アナログで学習する部分とデジタルで学習する部分と二つの部分があるので、しっかりと捉えることが大事であると話した。仕事を覚えて、それを何度か体験することによって、繰り返すことによって成長していくということ。覚えることに関しては、大いにデジタルの技術を使うべきである。それに慣れていくということは、自分で動かなければならないことであるから、ひたすらアナログに徹する。この部分を力説してきた。宮沢賢治は典型的なアナログ人間である。必ず東西南北に行っていることを書いている。このような部分も必要であることを話した。

資料No.4で施策の説明をいただいたが、総合教育会議があるのは、従来の縦割りを見直すものであり、教育委員と教育長と私で意見交換する新たに出来たスキームである。課題認識を持っていただき、それを共有することによって市で動くものである。これからの進め方はこのようになるべきである。一日も早く条件整備をやっていきたい。

千葉委員 部活の指導に関わることだが、合唱のクラブを横並びでやっていることに関して、密閉を避けているが、大きな声で歌うことに関して心配である。

また、柔道でつかみ合って、向き合って、顔を近づけ合う状況のクラブについて、科学的どうなのか心配である。

伊藤委員 柔道に関しては、まだ組んでやらないように指導している。ただし、岩手県の場合は、まだ感染者がいないので、段階を踏んでやるようにしている。体操や個々にできる受け身からスタートしている。2段階では、お互い簡易な動きをすることとし、3段階で組合をするような状況である。全国的には1段階の状況である。

桂島委員 剣道も厳しい状況であり、他の部活から2週間3週間遅れて活動してよいことになった。柔道と同じで段階を踏んでやるようにしている。大会も可能になったが、剣道の場合は、面の中にマスクを付けて、マスクも剣道連盟から手拭いを二重に折って紐で結び、フェイスシールドとアイガードをしている。部によって対策に違いがある。心の絆交流大会では、3年生の保護者のみ観戦ができた。練習試合も学校によって保護者の観戦対応が違う。統一した対応をお願いしたい。

図書館長 合唱について、合唱連盟では毎年8月にコンクールを行っていたが、全国大会、東北大会、支部大会が中止になった。岩手県大会も中止になった。そこで、代替方法を考えることになったが、実際にステージに上がることは難しいが、映像で今年の活動を残そうと取組をしている。感染防止に関して、部活動も難しい状況ではあるが、岩手県に関しては、感染防止対策をしながら活動されている。全日本合唱連盟では、6月29日付で合唱活動をする際の感染防止に関するガイドラインを出している。会場の考え方や対面を避けるなど、ガイドラインとして示し、それに基づいて一般の方も活動している状況である。

教育長 今日は、学校の様子も共有しながら議論を進めてきた。最後に市長から今日のまとめをお願いします。

市長 今後の政策に今日の議論した内容を参考にさせていただく。特にICT環境の整備は少しでも早く実現するように努力していきたい。

今後とも、この総合教育会議は、その時その時のテーマ性をもった議論を計画的にやっていきたい。

10 担当課

市長公室政策企画課